

## 自己指導能力

校長 香山 和昭

暦の上では、まもなく春を迎えます。まだまだ寒い日が続きそうですが、降り注ぐ日の光など春に向かう気配が感じられるようになりました。

3年生の中には、すでに私立高校に進路が決定した人もいますが、大多数は、2月28日の県公立高校の学力検査に向け、準備に励んでいることと思います。「春待つ」とは、冬の寒さに耐えながら春への思いや開花を馳せる言葉ですが、今の3年生の心境にも通ずるものでしょう。くれぐれも体調管理に留意し、当日存分に力を発揮してくれるよう願っています。また、1年生は、1月9日（木）から2泊3日で行われた「スキー教室」で大きな成果を収めてくれました。ここで学んだ人への感謝、仲間と深めた絆を今後の学校生活に活かしてくれることを確信しています。そして、4月から本校の「大黒柱」となる2年生は、「校外学習（東京ウォーク）」の準備に取り組んできました。3月に延期となりましたが、修学旅行の事前学習でもあり、2年生の集大成となるこの行事の成功を祈っています。

さて、マリナーズで活躍したイチロー氏が昨年12月、故郷の愛知県で行われた「イチロー杯争奪学童軟式野球大会」の閉会式で子どもたちと指導者にメッセージを残しました。イチロー氏は「時代」というキーワードを基に、2つのことを強く訴えました。一つは「みんなが謙虚な気持ちで先生を尊敬し、自分自身を自分で鍛えてほしい」ということです。これは、現役時代、自らに課してきたポリシーそのものでもあるのかと思います。近年は「厳しく教育することが難しい」。そんな環境下で、誰がどのように教育ができるのか。「最終的には自分。そういう時代に入ってきた」と語りかけました。

イチロー氏が「もう一点」と付け加えたのは、自ら行動して挑戦することの大切さです。「情報はスマホ一つですぐに調べられる時代となった。世界が小さくなったように思えるが、外に出て分かることがある。体験して感じてほしい。」「経験し、考える力が成長につながる。」「当たり前前（あたり前）のことが決して当たり前でないことに気付き、価値観が大きく変わるような経験をしてほしい」と続けた。日米28年の現役生活の集大成とも言える、思いと言葉でした。

まさにこれからの時代は「自己指導能力（その時、その場で、どのような行動が適切か、自分で考えて、決めて、実行する能力）」を身に着けることが大切となります。これは本校の合言葉「Much Better（さらによりよく）～かがやきサイクルで鍛え、高める～」の実践に繋がるものでもあります。

3学期も残り2か月となりました。このメンバーでの今年度の生活も残りわずかです。今回テーマに上げた「自己指導能力」は、一人一人これから生きていく上で必要とされる力であり、自分の人生を切り拓く力になるのです。様々な場面でこの力を高めていくことを期待したいと思います。